

IV 研修及び相談・情報提供

感染症情報センターでは、研修及び相談・情報提供業務を情報センターの情報収集、発信機能の一つとして位置付けている。本項目の報告については、年度単位での実績を報告する。

1 研修への講師派遣、研修の受講、受け入れ

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受け、前年度まで開催されていたような対面での集合研修は開催中止やweb開催に変更になったものが多かった。また、例年開催していた県内保健所職員を対象とした当センターの主催研修は、保健所における新型コロナウイルス感染症業務の逼迫等の理由により開催を見送った。令和2年度の当センターからの研修講師実績を表IV-1-1、当センター職員の研修会受講状況を表IV-1-2、当センターで研修を受け入れた実績を表IV-1-3に示した。研修会受講者は、研修内容等を随時他の職員に伝達し、職員相互での情報・知識・技術の共有及び向上に努めた。

表IV-1-1 令和2年度埼玉県感染症情報センター研修講師実績

No.	研修の名称	主催者	対象者	実施日
1	令和2年度中堅養護教諭資質向上研修 ・感染症の基礎再確認 ・感染症発生時の対応	県総合教育センター	養護教員10年経験者	R2.11.17
2	令和2年度環境衛生監視員継続研修 「レジオネラ属菌について」	生活衛生課	県内保健所職員(政令市及び中核市を含む)、県保健衛生主管課職員、県衛生研究所職員	R2.12.8

表Ⅳ-1-2 令和2年度埼玉県感染症情報センター研修受講状況

No.	研修の名称	主催者	目的・内容等	期間	受講人数
1	保健所向けHER-SYSオンライントレーニング(web)	厚生労働省	HER-SYS操作理解の為	1時間	4
2	帰国者接触者外来向けHER-SYSオンライントレーニング(web)	厚生労働省	HER-SYS操作理解の為	1.5時間	4
3	行政担当者向けCOVID19セミナーシリーズ第1回(web)	国立保健医療科学院	COVID19の最新知見把握	2時間	4
4	行政担当者向けCOVID19セミナーシリーズ第2回(web)	国立保健医療科学院	COVID19の流行解析、疫学的状況と知識の学習	2時間	4
5	令和2年度感染症集団発生対策研修(web)	国立保健医療科学院	感染症集団発生時の実地疫学に基づく調査方法の知識・技術の習得	5日	1
6	令和2年度予防接種従事者研修会	公益財団法人予防接種リサーチセンター	予防接種の実施にあたっての医学的・制度的な基礎知識及び最新知識等の習得	4時間	1
7	令和2年度特別研修「人づくりセミナー」	彩の国さいたま人づくり広域連合	新型コロナウイルスとどう共存していくか、第2波への対応	1日	4
8	薬剤耐性菌の検査に関する研修	国立感染症研究所	薬剤耐性菌検査の基礎的知識及び検査技術の習得	2日	1
9	第79回日本公衆衛生学会(web)	日本公衆衛生学会	公衆衛生の向上、増進に寄与する科学的エビデンスの習得及び公衆衛生活動の実施状況の把握	3日	2
10	第32回日本臨床微生物学会(web)	日本臨床微生物学会	感染症・臨床微生物学についての最新知識の取得・情報交換	2日	1
11	令和2年度結核対策推進会議(web)	結核研究所	結核に関する最新知識の習得と情報交換	2日	4
12	次世代シーケンサー技術研修	国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センター	SARS-CoV-2の全塩基配列の解析をNGSで行う研修	3日	1
13	新型コロナウイルス変異株の地方衛生研究所における検出について(web)	地方衛生研究所全国協議会	新型コロナウイルス変異株スクリーニング検査についての概説および質疑	1時間	5
14	令和2年度第一回「病原体の取り扱いに係る研修会」	衛生研究所	バイオセーフティ研修伝達講義、感染症法の概要と病原体等検査業務管理要領について感染症法の規定に従った特定病原体等の適	4時間	27
15	令和2年度第二回「病原体の取り扱いに係る研修会」	衛生研究所	安全キャビネット等実験機器を安全に正しく使用するための知識の習得	2時間	22
16	令和2年度第三回「病原体の取り扱いに係る研修会:災害時病原体取り扱い訓練」	衛生研究所	災害時病原体取り扱い訓練	1時間	22
17	令和2年度第一回精度管理研修会	衛生研究所精度管理担当	マイクロピペットのバリデーション、メンテナンスについて	2時間	1
18	令和2年度第五回精度管理研修会	衛生研究所精度管理担当	微生物検査の精度管理について	2時間	8

表Ⅳ-1-3 令和2年度埼玉県感染症情報センター研修受け入れ実績

No.	来所者	目的・内容	対応	実施日
1	川越市保健所検査課職員 越谷市保健所検査課職員	DNAシーケンスによるノロウイルスの遺伝子型別研修	麻しん・風しんウイルス遺伝子型別検査研修	R2.8.5

2 相談件数の推移、相談者の属性、内容、方法

感染症疫学情報担当では、平成14年4月に感染症疫学情報担当が発足して以来、情報の収集・解析及び還元情報の効果を評価するために、担当に寄せられた問い合わせ内容を、相談データとしてMicrosoft Access上に構築したデータベースに蓄積し、相談の傾向を把握している。

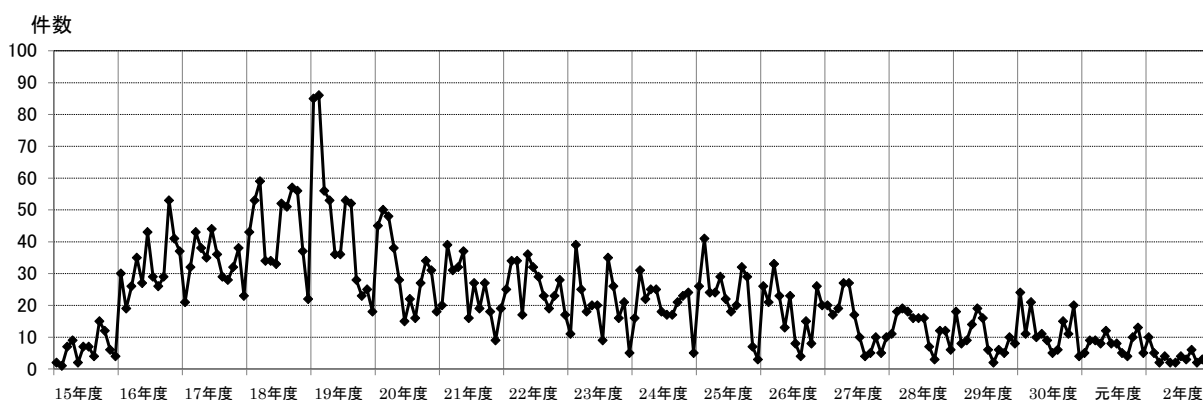
年度ごとの相談件数は、感染症情報センターが県庁から移管された平成16年度に大きく増加し、最多となった平成19年度まで増加が続いたが、その後は減少傾向にある。令和2年度の相談件数は46件で、前年度の96件を下回った(表IV-2-1)。

表IV-2-1 年度別相談件数

年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
相談件数	76件	395件	399件	531件	551件	372件	294件	317件	245件

年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
相談件数	244件	275件	220件	171件	154件	121件	147件	96件	46件

月別の相談件数は平成19年度以降、年度前半(4月～9月)の合計相談件数が年度全体の53.1%～74.3%で、後半(10月～3月)より多い状況が続いている(図IV-2-1)。

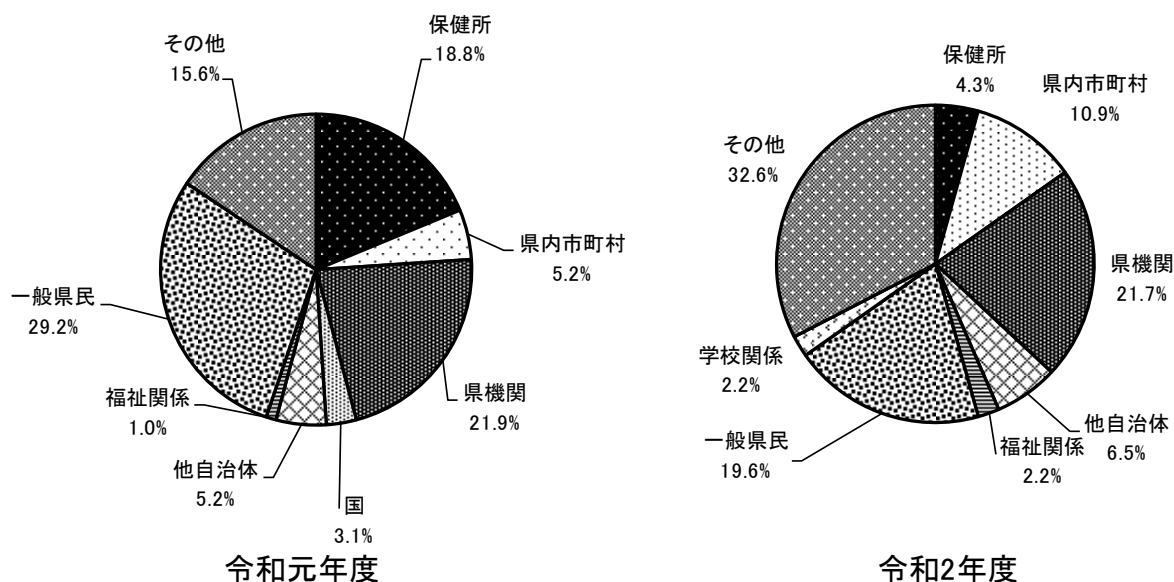


図IV-2-1 月別相談件数の推移

相談者の属性を件数及び割合で見ると、保健所を除く県機関、一般県民、県内市町村の順が多かった(表Ⅳ-2-2、図Ⅳ-2-2)。最多であった県機関からの相談は10件(21.7%)であったが、前年度の21件(21.9%)より下回っていた。また保健所、他自治体、一般県民からの相談も前年度を下回っていた。なお、主な相談者属性の内訳は、県機関(10件・21.7%)は県各部・各課の職員、他自治体(3件・6.5%)は他自治体の保健・衛生・環境の研究所であった。また、その他(15件・32.6%)の属性は、報道関係機関、医療関係者等であった。

表Ⅳ-2-2 相談者別・相談内容別 相談受理件数

	感染症全般	疾患について	新型コロナウイルス感染症関係	検査	システム関連	インフルエンザ	研修	その他	総計	割合
保健所			1			1			2	4.3%
県内市町村						5			5	10.9%
県機関	1	3	3		1			2	10	21.7%
他自治体			2	1					3	6.5%
福祉関係							1		1	2.2%
一般県民			6			1		2	9	19.6%
学校関係			1						1	2.2%
その他		2	6	1		4		2	15	32.6%
総計	1	5	19	2	1	11	1	6	46	100.0%
割合	2.2%	10.9%	41.3%	4.3%	2.2%	23.9%	2.2%	13.0%	100.0%	



図Ⅳ-2-2 相談者内訳

相談内容分類では「新型コロナウイルス感染症関係」19件(41.3%)、「インフルエンザ」11件(23.9%)の順で相談が多かった。「その他」は6件(13.0%)であった(表Ⅳ-2-2、図Ⅳ-2-3)。「インフルエンザ」(4件・4.2%

→11件・23.9%)、は前年度から増加した。一方、「感染症全般」(20件・20.8%→1件・2.2%)、「疾患について」(13件・13.5%→5件・10.9%)、「検査」(7件・7.3%→2件・4.3%)、「システム関連」(3件・3.1%→1件・2.2%)、「麻しん」(4件・4.2%→0件・0%)、「O157等」(4件・4.2%→0件・0%)は、前年度から減少した。

「新型コロナウイルス感染症関係」は、一般県民(6件・31.6%)、その他(6件・31.6%)からの相談が最多であり、相談内容は検査相談や情報の掲載場所についての問い合わせであった。「インフルエンザ」は県内市町村(5件・45.5%)からの相談が最多であり、相談内容はインフルエンザの流行情報もしくは発生状況(データ提供依頼を含む)に関するものが最多であった。

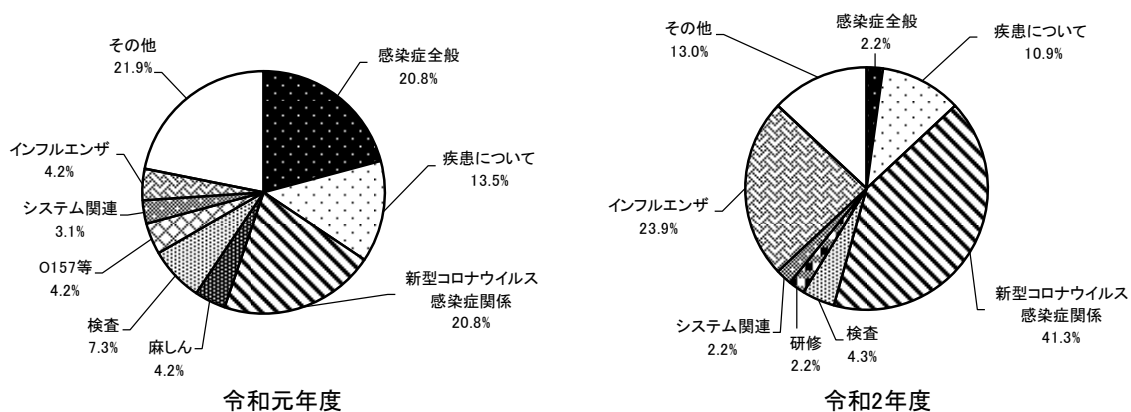


図 IV-2-3 相談内容分類

相談方法別では、電話による相談が 28 件(60.9%)、e-mail による相談が 16 件(34.8%)、FAX による相談が 1 件(2.2%)、その他の方法が 1 件(2.2%)だった(表 IV-2-3)。

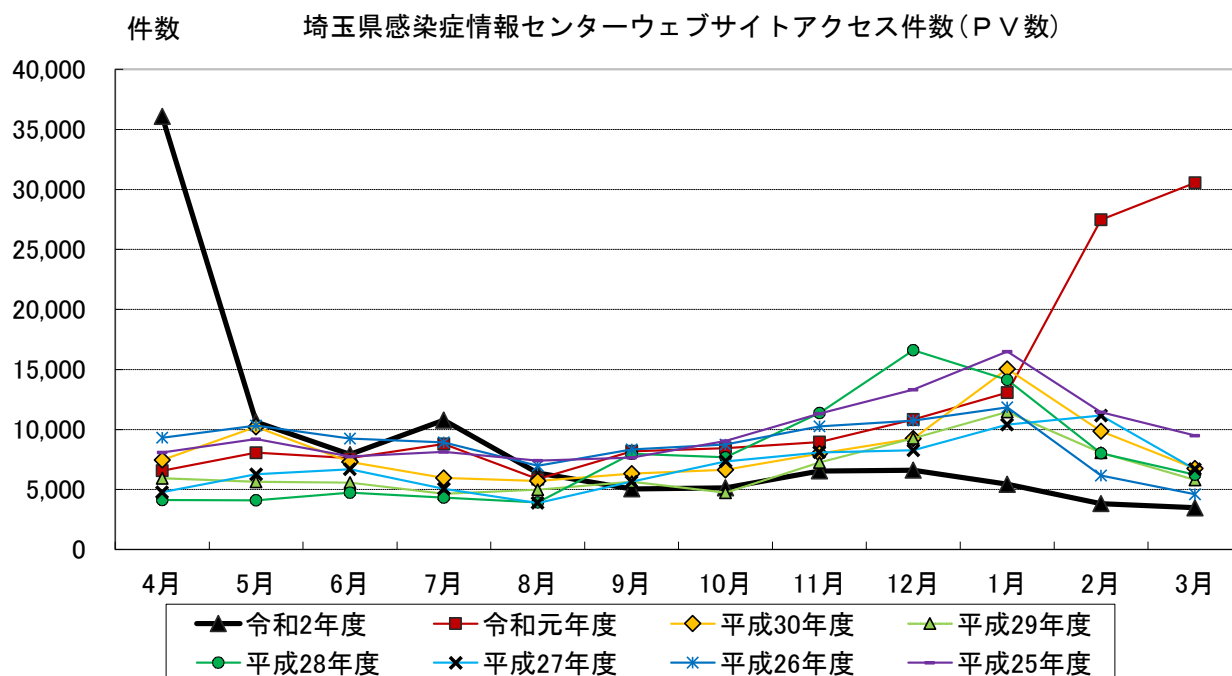
表 IV-2-3 相談方法別 相談件数

電話	e-mail	FAX	その他
28	16	1	1
60.9%	34.8%	2.2%	2.2%

3 ホームページによる情報提供

感染症情報センターでは、主として医療機関や市町村等関連機関への迅速かつ正確な感染症に関する情報の提供という視点から、埼玉県感染症情報センターホームページを運営している。

感染症情報センタートップページの月別アクセス件数を図IV-3-1に示した。令和2年度のアクセス件数は107,847件であった。令和2年4月は36,089件で、同年2月の27,470件、同年3月の30,551件をさらに上回り、過去8年間でも最多のアクセス数であった。その理由としては、新型コロナウイルス感染症の流行により、感染症への関心が特に高まったことが考えられる。



図IV-3-1 感染症情報センタートップページアクセス件数

また、令和2年2月26日に新たに開設した「COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の流行状況」のページには、3月に42,924件、4月に28,557件のアクセス件数があり、新型コロナウイルス感染症に関する情報提供の必要性が確認された。以後、新型コロナウイルス患者の解析結果の蓄積に伴い、ホームページへの掲載情報も更新し、内容の充実化を図った(図IV-3-2)。

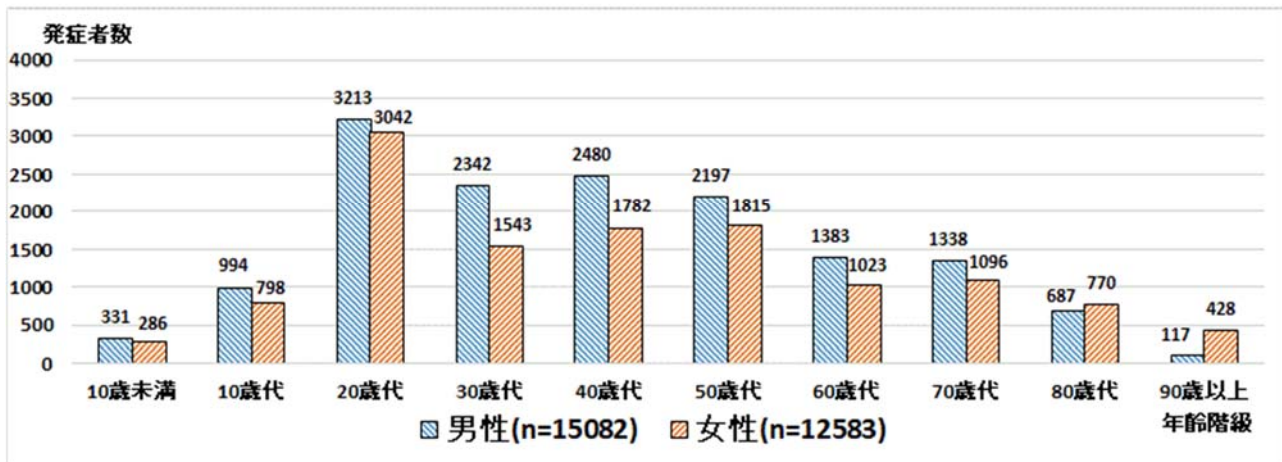
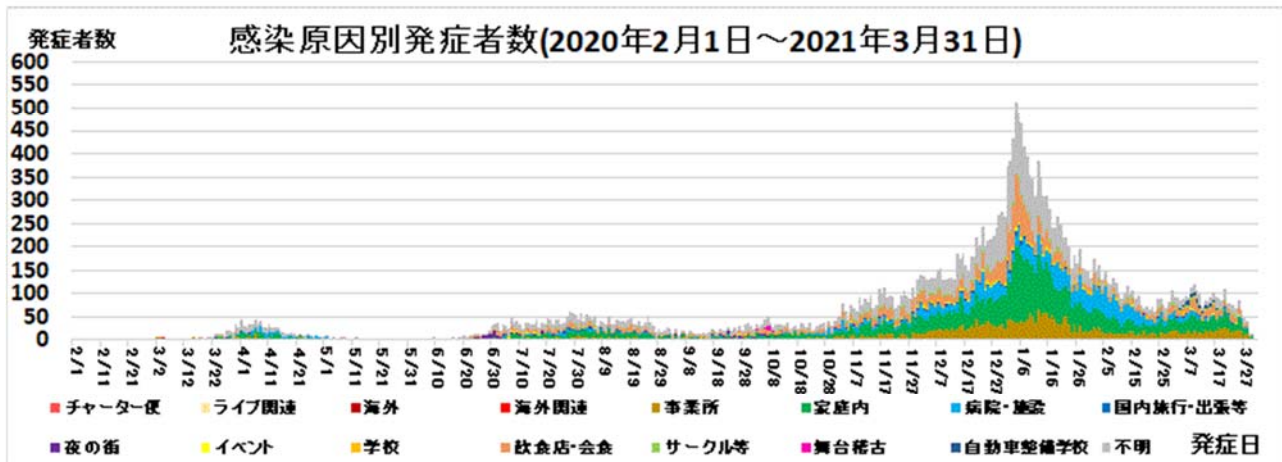
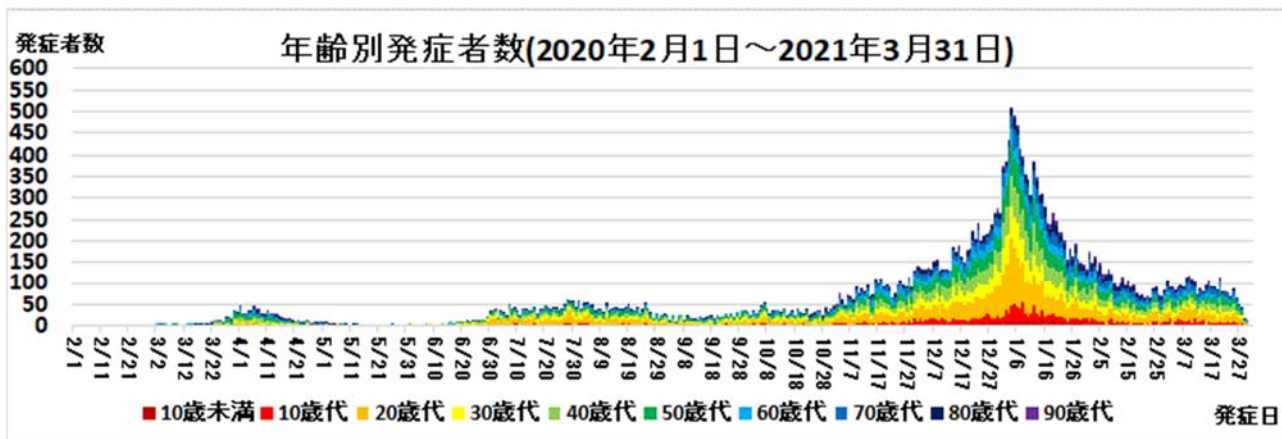


図 IV-3-2 ホームページ「COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の流行状況」への掲載情報

ホームページでは、患者発生情報のほか病原体検出情報についても掲載し、一か月に1回の更新を行っている。この更新情報は感染症発生動向調査週報に掲載したもので、病原体検出情報のほか、感染症の流行等を考慮に入れ、時期に合ったテーマをトピックスとして掲載している。表IV-3-1に、令和2年度に掲載したトピックス内容を示した。

表 IV-3-1 ホームページトピックス内容

掲載月	内容
令和2年4月	今シーズンのインフルエンザ
令和2年6月	腸管出血性大腸菌感染症と菌株検査
令和2年9月	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)
令和3年2月	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)続報